

JOHN WATERS' MULTIPLE MANIACS CECIL B. DEMENTED



マルチプル・マニアックス【日本初公開】
セシルB／ザ・シネマ・ウォーズ

ジョン・ウォータース監督

奇想天外映画祭番外編
Distributed by ADANSONIA

MULTIPLE MANIACS

〈バッドテイストの帝王が悪趣味を撒き散らした怪傑作〉
日本初公開——マルチプル・マニアックス

〈帝王が最も愛する映画に“捧げる”映画〉
セシル・B／ザ・シネマ・ウォーズ
ジョン・ウォータース監督

Films by
John Waters



奇想天外映画祭番外編
Distributed by ADANSONIA



「政治」と「自由」と「映画」を求めて—— ジョン・ウォータースは周縁に留まり続ける

文＝高橋ヨシキ(映画評論家)

ジョン・ウォータースは極度にポリティカルな映画監督であり、初のトーキー作品となる『マルチプル・マニアクス』においてもその政治性は突出している。ここで言う「政治性」とは、体制と大勢の双方に対して過剰に攻撃的であらんとするあり方のことだ。

ウォータースは極めて自覚的にマージナルな領域に留まり続けると同時に、その守護者たらしめてきた。彼がトランスグレッシヴな表現を故意に作品に盛り込むのはマージナルな領域の存在を可視化するためであり、それは圧倒的なまでに正しい。

マージナルな領域は流動的であるがゆえに、全てのトランスグレッシヴ・アートと同様、ウォータース作品もまたコンテキストと切り離せない。『マルチプル・マニアクス』は1969年のビッピー・カルチャー最後の輝き(と凋落)に対して投げられたユーモアあふれる呪詛として理解されるべきであり、またテート／ラビアンカ殺人の犯人逮捕が全米の関心事だったことも絶対に切り離せない——チャールズ・マンソンと「ファミリー」が逮捕されたのは撮影中の出来事だった(そしてウォータースは本作のエンディングを変更することを余儀なくされた)。

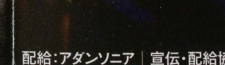
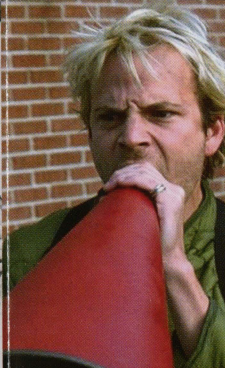
ウォータース自身が言うように『マルチプル・マニアクス』には『ピンク・フラミンゴ』に向けた習作としての側面もある。『ピンク・フラミンゴ』はミッドナイト上映で人気を博すことになるわけだが、配給を手掛けたニューライン・シネマのボブ・シェイは『マルチプル・マニアクス』でウォータースのポテンシャルに気づき「次の作品を撮ったらぜひ見せてくれ」と申し出た。それは『マルチプル・マニアクス』の配給を引き受けなかったための方便だったかもしれないが、「次の作品」と『ピンク・フラミンゴ』はボブ・シェイ、ウォータース両者に満足のいく結果をもたらした。『マルチプル・マニアクス』の剥き出しの政治性が『ピンク・フラミンゴ』ではより洗練された表現になったことも大きい。サド的な悪の称揚、マージナルでしばしば犯罪的な「自由」への渴望、「異食」と殺人……こうしたあれこれは『セシル・B・ザ・シネマ・ウォーズ』においても反復される。だが『セシル・B』の狂気は殺戮に向かう代わりに映画そのものを志向する。映画を作ることは殺人や変態セックスと同様に(あるいはそれ以上に)政治的だ。そう『セシル・B』は断言するのである。

マルチプル・マニアクス 【日本初公開】

製作・脚本・撮影・編集・監督:ジョン・ウォータース

出演:ティヴァイン、ティヴィッド・ロチャラー、メアリー・ヴィヴィアン・ピアース、ミンク・ストール、ジョージ・フィッキス

1970年 | アメリカ映画 | モノクロ | 96分 | ©Janus Films



BEHOLD U.S.A., BEHOLD J.W.!! アメリカを見よ、ジョン・ウォータースを見よ!

文＝柳下毅一郎(映画評論家、翻訳家)

2022年はジョン・ウォータースの年である。

今を去ること50年前、1972年3月17日、ボルチモア大学構内で、『ピンク・フラミンゴ』のワールド・プレミアがおこなわれた。つまり、**2022年は『ピンク・フラミンゴ』公開50周年**なのである。「人間の倒錯行為の塊」、悪趣味の祭典がアメリカに炸裂して半世紀。ジョン・ウォータースの快進撃はそこからはじまった。

ウォータースの50年は、悪趣味が世界に広まり、ウォータースが倒錯者から正統派アメリカン・コメディの旗手となる過程でもあった。今こそその50年をふりかえり、もう一度悪趣味の苦味を味わいなおそうではないか。そのために二本の映画が待っている。『マルチプル・マニアクス』は『ピンク・フラミンゴ』直前のあらあらしき自主制作映画で、ウォータースみずから「セルロイドの残虐行為」と呼ぶ。『セシルB／ザ・シネマ・ウォーズ』はウォータースの最愛の作品で、大学で講演に呼ばれたときには上映作に選ぶほどだという。

シャロン・テート殺害事件のあと、チャールズ・マンソンが犯人として捕まった直後に撮り終えたという『マルチプル・マニアクス』にはマンソン事件の影が色濃く、映画マニアのテロリストたちがハリウッド・スターを誘拐する『セシルB』ではウォータースの映画趣味が開陳される。ウォータースの好きなものすべてが、ここには詰め込まれているのだ。

同時に発売される『ジョン・ウォータースの地獄のアメリカ横断ピッチハイク』は2012年にウォータースがボルチモアからサンフランシスコまで繰り広げたピッチハイク旅行にまつわるエッセイである。もちろんただの旅行ではない。これは想像と現実をかき混ぜて、ウォータースのアメリカを再確認する旅なのだ。今こそウォータースのアメリカに飛び込もう。

セシル・B／ザ・シネマ・ウォーズ

製作総指揮:アンソニー・ドレレンツォ、フレッド・バーンステイン | 製作:ジョン・フィードラー、ジョン・カラッチョーロ、マーク・ターロフ

監督・脚本:ジョン・ウォータース | 撮影:ロバート・スティヴンス | 編集:ジェフリー・ウルフ

音楽:ベジル・ボールドワース、ゾーイ・ボールドワース

出演:ステイヴン・ドーフ、メラニー・グリフィス、アリス・ウィット、リッキー・レイク、ミンク・ストール、エリック・ロバーツ

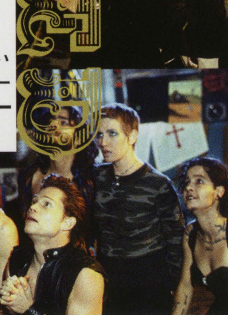
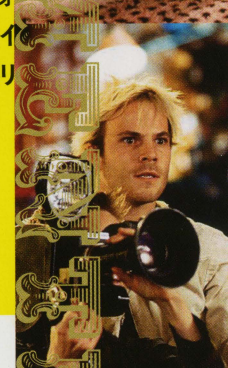
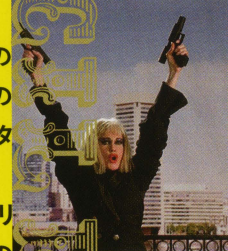
2000年 | アメリカ・フランス合作 | 88分 | カラー | ©Tamasa Distribution

『ジョン・ウォータースの地獄のアメリカ横断ピッチハイク』

ジョン・ウォータース著／柳下毅一郎訳

A5変型・ハードカバー・384頁 定価:本体2600円＋税 2021年12月下旬刊行予定 国書刊行会

◎伝説のカルト映画監督ジョン・ウォータースは66歳にして突如アメリカ横断ピッチハイクを計画した。「刺激がほしいんだ!」2つのフィクション「最悪の旅」「最高の旅」、そしてノンフィクション「現実の旅」で構成された新しいエンターテインメントの誕生。訳しながら笑いが止まらなくなったのはこれが初体験。この本は活字で読むジョン・ウォータースの新作映画だ!——柳下毅一郎



1月1日[土]よりお正月だよジョン・ウォータース

1/1Ⓟ 1/2Ⓟ 1/3Ⓟ 1/4Ⓟ 1/5Ⓟ 1/6Ⓟ 1/7Ⓟ

14:30 MM MM MM MM MM MM MM
16:40 MM CB MM MM CB MM MM
18:50 MM MM MM MM MM MM MM

1/8Ⓟ 1/9Ⓟ 1/10Ⓟ 1/11Ⓟ 1/12Ⓟ 1/13Ⓟ 1/14Ⓟ

12:30 MM MM MM MM MM MM MM
14:40 MM CB MM MM CB MM CB
16:50 MM MM MM MM MM MM MM

MM＝マルチプル・マニアクス
CB＝セシル・B／ザ・シネマ・ウォーズ

特別鑑賞券1400円(税込) 発売中

当日一般1800円のところ

※WEB割限定 なんといつでも1500円!

マルチプル・マニアクス割

『マルチプル・マニアクス』半券持参で
『セシル・B／ザ・シネマ・ウォーズ』が1,000円

新宿K's cinema

新宿駅東南口階段下ル甲州街道沿
ドコモショップ左入ル

Tel.03-3352-2471
www.ks-cinema.com/

